

藤野先生 一つは生徒の動き、もう一つは職員体制、その二点からお話をさせていただきます。

生徒の動きで、昨年度から自慢していることは、ハートフルプロジェクトです。これは生徒会役員が思い立って始めた、清掃ボランティア活動です。

生徒からボランティアを募り、校内、それから須恵中央駅、須恵中央駅周辺のコンビニ回りまでを自主的に2時間ぐらいかけて清掃活動しようという取り組みです。

生徒会の呼びかけで始まり、昨年度はPTAの人たちも呼応して一緒に行いました。

もう一つの職員体制と指導体制についてですが、今、この学校においてもかなりの勢いで職員の入替わりが起きている、ほとんど学校現場の若返りが進み、ベテランの先生たちの知恵や技術をいかに伝承していくかが課題になっていきます。

ベテランの先生の知恵と、



も学校の教育活動や子どもの頑張りがあります。そして、一番は子どものやる気が出たという効果があり、地道に継続して取り組んでいます。

次に規範意識を向上させるというところで、全校で合い言葉にしているのは、「ルールやマナーを守ること、これを徹底させる、大切にすること」ということです。

そこで本校の児童会では、毎年行動目標を決めていて、今年度は「あいさつ、掃除、話を聞く、そして元気に遊ぶ」、これらを頑張りょうとしています。各学級で行動目標について評価した結果を、ス

若い先生の行動力や学びたいという意欲、両方があるから学校は助かっています。お互いがそれぞれの良さを認める気持ちを持つと、相乗的に職員が良くなり、協働体制が出てくる。うちはそういう点ができているな、と自慢をしているところですよ。



須恵中央中学校 校長 山田恒夫先生

山田先生 4月に赴任して先生たちにお願いをしていることは、「チーム須恵東」という組織体としての業務遂行です。

一つは我々職員が何でも言い合える環境づくり、楽しい職場づくりをめざし、計画しています。一人で抱え込まずに、学年や学年を超えたチーム須恵東として対応をしているということですよ。

それと、生徒指導面で私が言っているのは、生徒に笑顔



須恵第二小学校 校長 森川正樹先生

クルミミーティング(代表委員会)で交流し、具体的な改善策を自分たちで決め、実行しています。

このようなサイクルを通して、少しずつですが地域でありさつができる子どもが増えているとお聞きしています。

森川先生 取り組んでいることは凡事徹底ですね。「当たり前」のことは当たり前でできる。「二小生活スタンダードファイブ」を、先生と子どもたちに示しています。「あいさつ、言葉遣い、整理整頓、掃除、時間を守る」この五つを生活スタンダードファイブとしています。このことを徹底し、子どもたちが当たり前のようにできるとできるよになると、今言われている学力も自然につ

で寄り添い、傾聴の姿勢でじっくり話を聞き、大いに誉め、真剣に叱り支えるということですよ。そして、最後はどんな生徒も見放さずに支えていくことを先生たちにお願ひしています。

また、326人の子どものために朝のあいさつだけではなかなか覚えきれませんので、「ランチミーティング」を行なっています。

昼食の時間に各クラス8人から10人ぐらいずつを校長室に迎えて、前もって書かせている、今頑張りしていることや好きなタレントのことなどを話しながら将来の話もして、子どもたちの様子を私も把握する機会にしています。



須恵第一小学校 校長 西村一徳先生

稲澤先生 本校では、「あいさつと笑顔があふれる学校」を目指しています。

いてくる。こういう基盤をきっちり育てていきたいと思いますという確認をしているところですよ。

例えば、整理整頓についてですが、以前は靴箱の靴のしまり向きがバラバラだったり、どうかしたら靴が昇降口に散らばっていたこともありましたが、これをきちんとしようというところで取り組み、大體、かかとの向きがきれいにそろうようになってきました。

嬉しかったのは、この前、地域の公民館で子どもたちが学習した時に、入り口の靴をきれいに揃えて並べている子がたくさんいたんです。そういうところにも目こぼりの取り組みの成果が出てきているんだな、と手応えを感じています。

そういった子どもを育てるために、先生たちに三つのことをお願いしています。一つ目は、褒める達人になってくださいということですよ。子どもは褒められると、「よし! やらう!」と意欲が高まり、

力を入れている取り組みは二つで、一つは学力を向上させること。もう一つは心の教育で、規範意識を向上させることを頑張りしています。

まず、学力向上は、特に子どもたちの学ぶ意欲、分かったい、知りたいという意欲を大事にし、育てていきたいと思っています。

具体的には、全児童の算数の実態をカルテにまとめています。習った問題を解かせて、その問題ができたかどうかを、一人ひとりのカルテに1問ずつ記録しています。教員は実態を把握し、問題の質や量を考えながら、個に応じた指導をしていきます。教員が代わっても、その子の実態が引き継がれていくという形で取り組んでいます。

また、学校外の力をお借りするということで、昨年度から保護者の丸つけボランティアを夏休み前、冬休み前の補充学習の期間に募集し、お手伝いしていただいています。子どもたちは、保護者から

自尊心も高まる。そのことが、次また頑張りょうというエネルギーになっていきますから、とにかく褒めてやってくださいとお願いしています。

二つ目は、みんなで決めたことはみんなで一つの方向を向いて徹底してやりましょうということですよ。

三つ目は、決して一人で抱えこまないということ。うまくいかない部分を抱えこまずに、チームでやっつけていこう、みんな一緒に子どもを育てていこうというところを、先生たちにお願ひしています。

安河内先生 自身が一番大事にしている言葉に「自学自覚」というものがあります。これは自分で考えたのですが、自ら学ぶ者は自らを成長させるという意味です。子どもたち自身が頑張りょうで、それが成長や喜びにつながるということを先生がきちんと教える。それを大事にしています。

丸をつけていただいたり、間違った時も励ましていただいたりして、教員もびっくりするほど集中度が上がりますし、普段、丸つけに追われています。教員はその間、指導に重点が置けるといふメリットもあります。

保護者ボランティアの人たちから、「自分の子どもの新たな一面を見た。こんなに学校で集中して勉強できる時間があるんだ。」との感想をいただきます。それは保護者のみなさんの励みがあるからなんです。

職員にとってもメリットがありますし、保護者にとって



いつでもどこでも同じようにできることを目指しています。例えば、あいさつ、それから靴をそろえる、傘をつぼめる、あるいは目を向けて話を聞く。

やはり、人が生きていく上で大切な品性というものを、学校でも教えないといけないかと思っています。気品とか品格とか言いますが、はっきりと「これが」という内容は分りませんが、小学校、中学校でも教えていかななくては行けない日本の品性というんですか、そういったものをしっかり子どもたちにも伝えていきたいと思います。

